

福岡市教育委員会教育長 殿

所属校名 福岡市立春吉中学校  
職・氏名 教諭 福田文子  
指導者名 稲吉勝弘

### 研修最終報告書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

#### 記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡中学校研修員  
2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡中学校  
〒810-0061 福岡市中央区西公園12番1号  
電話番号 (092) 771-8381  
FAX番号 (092) 732-1147

3 研究主題及び副題

「できる」楽しさを味わうことができる保健体育科学学習指導法の研究  
～スキルアップ活動に基づく、個に視点をあてた課題別学習活動を通して～

4 研究内容の概要

(1) 研究の目標

各単元において、スキルアップ活動を通して、自己の課題を把握し、課題を解決するために適した学習活動を行うことで技能の習得をめざし、「できる」楽しさを味わうことができる保健体育科学学習指導法を究明する。

(2) 研究の仮説

保健体育科の学習において、スキルアップ活動を行えば、自己の課題を把握し、課題解決の方略を考え、実践する活動を通して課題が解決され、技能の高まりを実感することで生徒が運動することの楽しさを味わうことができるであろう。

(3) 研究の内容

- スキルアップ活動の有効性を分析する。

(4) 主題及び副主題の意味

① 主題の意図するもの

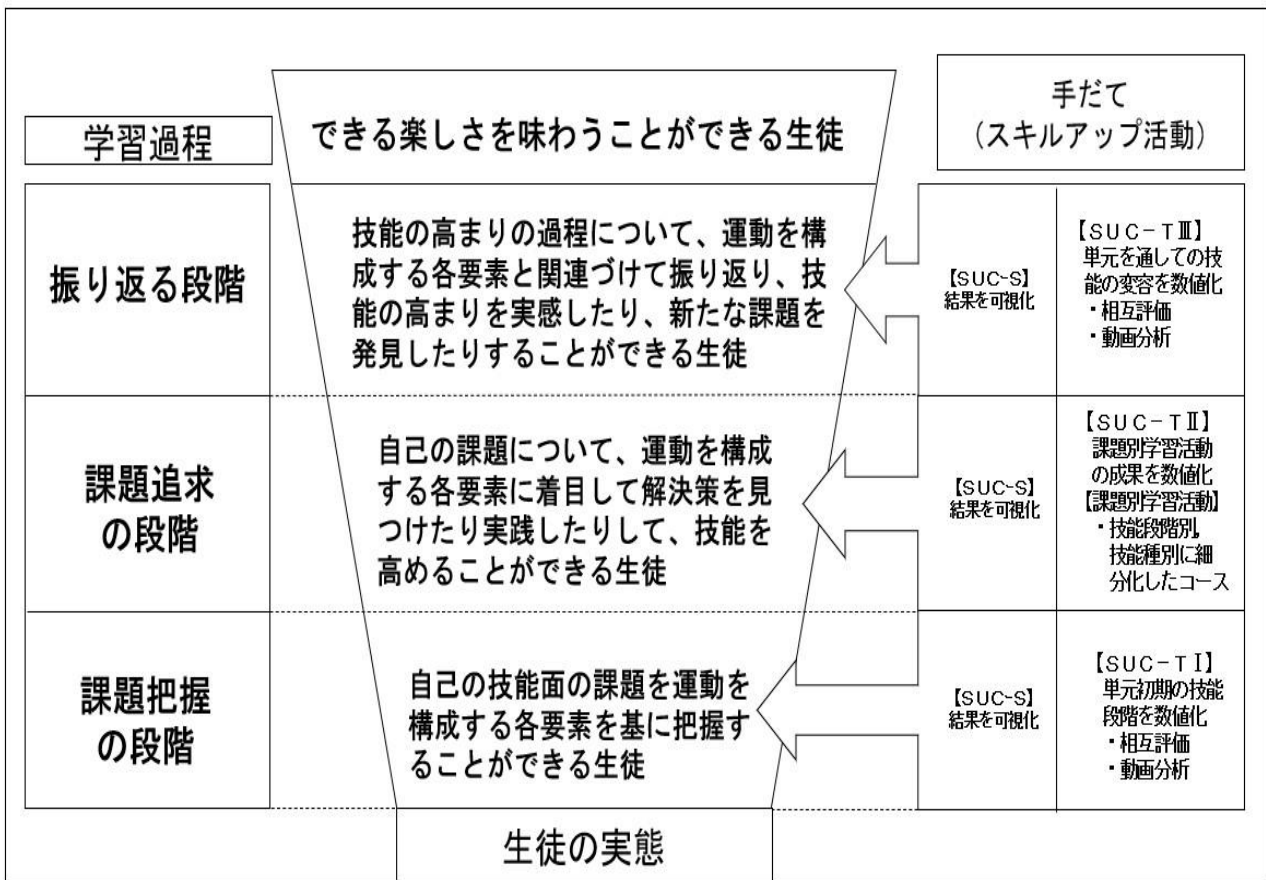
「『できる』楽しさ」とは、運動技能が高まったり、できなかった運動ができるようになったりすることを通して感じる喜びや達成感のことである。「味わう」とは、その喜びや達成感を得る体験のことである。稲永(2013)は、「できる」楽しさについて「運動有能感を高めること」と定義している。「運動有能感」には、「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」の3つの要素から構成されており、運動有能感の高まりが、できる楽しさや喜びを味わうことにつながると述べている。本研究ではその中の「身体的有能さの認知」に着目し、技能が高まるという成功体験を通して生徒が「できる」楽しさを感じ、運動意欲を高め、自ら進んで運動に親しもうとする姿へ変容すると考える。

② 副主題の意図するもの

「スキルアップ活動」とは、技能を段階的に向上させるための活動のことである。スキルアップ活動には、「スキルアップチェックテスト(以下、SUC-T)」「スキルアップチェックシート(以下、SUC-S)」「課題別学習活動」3つがあり、これらを手だてを三段階に分けて行う。はじめに、SUC-Tとは、各単元で教師が習得させたい運動技能を技能種別、技能段階別に細分化したスキルテストのことである。運動を構成する動きの要素を教師が5つ程度に分類したスキルテストに生徒が取り組み、各要素の出来映えを3点満点で評価する。同じ内容のSUC

ーTを、課題把握の段階、課題追求の段階、振り返る段階で1回ずつ実施する。次に、SUC-Sとは、SUC-Tの結果を数値化したものを記録するシートのことである。SUC-Sは、自己の技能段階を可視化できるシートになっているため、課題をより明確に、かつ客観的に把握することができる。最後に、課題別学習活動とは、SUC-Sで顕在化した課題を解決するために必要な学習活動の場を自分で選択し、課題解決のために取り組むことができる活動のことである。教師が、単元の特性や予想される生徒のつまづきを想定して、技能種別、技能段階別に細分化した学習活動の場を複数設定する。そして、SUC-Sをもとに、高めたい技能や課題解決に適した学習活動の場を自ら選択しながら、個々の課題を解決する課題別学習活動を個やペア、小集団で行い、課題解決につなげたり技能習得をめざしたりする。これら3つの活動を総称した「スキルアップ活動」を手だてとして授業で行うことで、運動技能が高まったり、できなかった運動ができるようになったりすることを通して感じる喜びや達成感を得ることができる生徒が育成できると考える。

(5) 研究構想図



(7) 検証の方法

- 抽出生徒のアンケート調査による意識の変容
- 抽出生の学習カードの記述、SUC-S、動画比較

(8) 実践と考察（実践2）

- ① 単元「器械運動～マット運動～」
- ② ねらい

本実践では、SUC-Tによって明確になった個人の技能面の課題について、運動を構成する要素に着目して解決に向かわせることで、技能の高まりを実感させることをねらいとする。

③ 実践2の仮説

本単元「器械運動～マット運動～」の学習において、個々の技能面における課題を把握するために適切なSUC-Tを設定し、テスト結果に応じた課題別学習活動を行えば、個人の技の技能が向上したり、できる技が増えたりすることができ、成功体験を蓄積することを通して運動することの楽しさを味わうことができるであろう。

課題把握の段階：基本技（前転・後転・開脚前転・開脚後転）と自己が選択した発展技のSUC-Tにおいて、技を構成する動きの要素を細分化した技能テストを実施し、結果をSUC-Sに記録して課題を可視化させることは、自己の課題を明確に把握することができるだろう。

課題追求の段階：個々の課題解決に向けた課題別の学習活動の場を選択して、課題解決に取り組みさせることは、課題解決の方略を見出させることができるだろう。

振り返る段階：課題別学習活動を取り組みさせた後に、振り返るための学習活動の場やSUC-Tを設定したことは、課題が解決され、技能の高まりを実感することができるだろう。

#### ④ 授業の実際

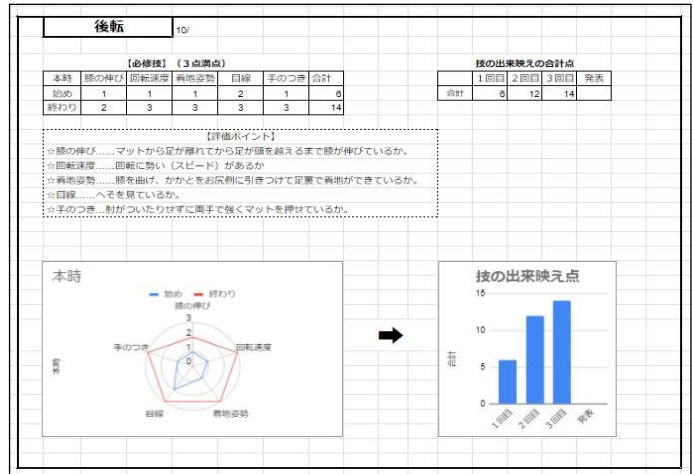
##### ア 「課題把握の段階」

この段階でのねらいは、マット運動の特性を捉えさせ、自己の技能面の課題を把握し、単元の見通しをもたせることである。そのためにまず、マット運動の歴史や成り立ち、模範動画の視聴をさせ、各技のポイントやコツ、技の行い方について小学校時での学習をもとに振り返らせた後に、SUC-T Iを実施した。基本技である前転、後転、開脚前転、開脚後転の必修技と、発展技から挑戦できる選択技を1種取り合わせ、結果をSUC-Sに記録をさせた。【資料1】SUC-Sでは、各技を構成する要素や技のポイントを五つに分類し、それぞれを3点満点で評価させた。グループ内でSUC-Tを行う際に、評価者が、「右手はマットに着けていたが左手が着けていなくて肘が着いてしまっていた」や「回転速度が遅いから着地姿勢もバランスを崩していた」と、評価項目である技の要素と関連付けながら具体的な言葉で評価をする姿がみられた。

##### イ 「課題追求の段階」

この段階でのねらいは、SUC-T Iで顕在化した自己の技能面の課題を解決し、技を正確に、かつ滑らかに行えるように技能を習得させることである。そのためにまず、SUC-T Iを通して見つかった個々の課題を解決させるために、課題別学習活動に取り組みさせた。ここでは、【資料2】のように、生徒の課題解決のヒントとなる各技のコツや生徒のつまづきをあらかじめ想定し、個々の課題解決と技能習得に対応した八種類のコースを設定し、生徒が自己の課題を解決するために必要と考えるコースを選択させ、課題解決に取り組みさせた。すると、同じ課題をもつ生徒同士が同じ活動場所に集まることで、互いに課題を共有し、アドバイスをし合いながら取り組む姿が見られた。なかには、側方倒立回転を選択した生徒が、自分が選択したコースでは、なかなかコツをつかむことができずに困っていた時、同じコースにいた生徒が倒立前転をするコースに移動して倒立姿勢を保つ練習をすることを勧めたところ、側方倒立回転が上達し、コツをつかむことができた。次に、課題別学習活動後の技能の変容や課題把握のために、SUC-T IIを行い、課題別学習活動の成果と課題を再認識させた。

【資料1】SUC-S（基本技）



【資料2】課題別学習活動のコース

技	技を構成する7つの要素	教師の手立て
1 後転・開脚後転	○膝の伸び……マットから足が離れてから足が頭を越えるまで膝が伸びているか ○回転速度……回転に勢い（スピード）があるか ○着地姿勢……膝を曲げ、かかとをお尻側に引きつけて足裏で着地ができているか ○視線……へそを見ているか ○手のつき……肘がついたりせずに両手で強くマットを押しているか	・傾斜マット ・ゆりかご練習 ・産布団活用
2 開脚前転	○膝の伸び……マットから足が離れてから足が着地守前まで膝が伸びているか ○回転速度……回転に勢い（スピード）があるか ○着地姿勢……膝をのびして着地ができているか ○前傾姿勢……手でマットを押すときに上半身を前に倒すことができているか ○手のつき……股の近くに手をつき、強く押しているか	・傾斜マット ・段差マット
3 伸腿前転	○膝の伸び……股の近くに手をつき、強く押しているか ○回転速度……回転に勢い（スピード）があるか ○中間姿勢……上半身が前傾姿勢をとれているか ○手の押し……膝の横に手をつき、マットを強く押しているか ○着地姿勢……かかとをつき、滑らかに起き上がれているか	・傾斜マット ・段差マット
4 伸腿後転	○開始姿勢……立ち姿勢から膝を伸ばしながらマットに倒れることができるか ○膝の伸び……開始姿勢から終末姿勢まで膝が伸びているか ○回転速度……回転に勢い（スピード）があるか ○手の押し……手で強くマットを押しているか ○着地姿勢……足を手の近くに付けているか	・傾斜マット ・安全マット
5 側方倒立回転	○膝の伸び……開始姿勢から終末姿勢まで膝が伸びているか ○回転速度……勢い（スピード）があるか ○中間姿勢……マットと垂直に倒立ができているか ○着地姿勢……1/8 90度回転して正しい向きで着地ができているか ○視線……マットを見ているか	・壁倒立用マット ・ゴム結活用 ・マットにラインテープを引く ・手をつく位置の目印
6 側方倒立回転 1/4 ひねり	○姿勢……マットと垂直に倒立ができているか ○足の振り上げ……膝が伸びているか ○回転速度……勢い（スピード）があるか ○着地姿勢……1/4 向きを変えて着地ができているか ○視線……マットを見ているか	・壁倒立 ・ゴム結活用 ・ラインテープ ・手をつく位置の目印
7 倒立前転・補助倒立前転	○足の振り上げ……振り上げ足の膝を曲げずに勢いよく振り上げることができるか ○倒立姿勢……マットと垂直にまっすぐと倒立ができているか ○タイミング……体がマットの方に倒れ始めてから肘一背一背中一腰一膝の順で曲げているか ○着地姿勢……お尻ついたり、膝をついたりせずに、足の裏で安定した着地ができているか ○視線……へそを見ているか ○手のつき……かかとをつき、滑らかに起き上がれているか	・壁倒立用マット ・安全マット ・跳び箱活用
8 前方倒立回転 跳び	○開始姿勢……手かかとを垂直にしているか、速くに手をついているか ○足の振り上げ……振り上げ足の膝を曲げずに勢いよく振り上げることができるか ○回転速度……回転に勢い（スピード）があるか ○着地姿勢……力強くマットを押し、ひざを曲げずに両足を閉じて着地ができているか ○視線……立ち上がる時に後方を見ているか	・ロングマット ・安全マット ・産布団

ウ 「振り返る」段階

この段階でのねらいは、課題別学習活動を通して技能が高まった技能を活用して振り返らせることである。そのためにまず、シンクロマットに取り組みさせた。選曲や隊形移動等の構成を生徒自身が考え、各グループでの練習後に発表会を行わせ、各グループの演技の動画視聴を通して、自己の高まった技能が集団演技のなかで活用できたかどうかを振り返らせた。次に、SUC-TⅢに取り組みさせ、自己の課題が解決できたかどうかを振り返らせた。SUC-SにSUC-TⅠとSUC-TⅢの結果を数値で記録することで、レーダーチャートに反映させ、単元初期と単元後期の自己の技能の変容を視覚化できるようにした。さらに、単元最後に情意面に関するアンケート調査を実施した。

⑤ 考察

スキルアップ活動を行ったことが、「できる」楽しさを味わうことができる生徒を育成するために、抽出生や学級全体に対して有効に働いたかどうかをSUC-Sや様相観察、学習カードの記述、アンケート結果から分析し、考察を行う。なお、実践を進めていく中で研究内容の変更があったため、実践2の考察を中心としている。

○ 抽出生のタイプ

体力や運動技能、マット運動における課題が異なる4名の生徒を抽出した。

	特徴	技能	情意面
抽出生A	後転技をする際の着手方法につまづきを感じている生徒	△	×
抽出生B	倒立前転の技をする際の、倒立姿勢と倒立から前転につまづきを感じている生徒	○	×
抽出生C	伸膝後転の技をする際の着地姿勢につまづきを感じている生徒	○	×
抽出生D	側方倒立回転の技をする際の間姿勢につまづきを感じている生徒	×	△

「課題把握」の段階では、抽出生A、C、Dは、【資料5】にあるように、姿勢に着目した課題点を、「課題追求」の段階では、課題を解決するための方略を、「振り返る」段階では技能の高まりについて具体的な記述ができた。

【資料5】実践2における各学習過程でのめざす姿および抽出生の変容

	学習過程	抽出生A	抽出生C	抽出生D
課題把握の段階	SUC-TとSUC-Sを通して自己の技能面における課題を捉え、言語化することができる。	後転技を課題とし、技を正確に行う上での課題点とその要因、技の出来映えという視点での課題点まで具体的な記述が見られた。 (◎)	伸膝後転を課題とし、滑らかに着地姿勢をとることができていないという課題に対する要因まで具体的な記述が見られた。 (◎)	側方倒立回転を課題とし、中間姿勢に対する課題点とその要因までを自己分析した記述と仲間からのアドバイスに関する記述が見られた。 (◎)
課題追求の段階	課題別学習活動を通して、自己に適した活動場所を選択し、解決策を見いだすことができる。	【傾斜を利用したコース】 課題を解決するために具体的に意識したことや自分の技の行い方について新たな気づきに関する記述が見られた。 (◎)	【傾斜を利用したコース】 友達からのアドバイスを通して解決策を見だし、新たな課題も発見することができたという記述が見られた。 (◎)	【セーフティマット・ゴム紐を利用したコース】 倒立姿勢を保つために腰の反りなどに意識を向けて取り組むことで少しコツをつかむことができたという記述が見られた。 (◎)
振り返る段階	SUC-Tを通して、課題が解決したり、技能の高まりや新たな課題点について振り返ることができる。	課題の「手のつき」が少し改善されたことで滑らかに回転できるようになったという記述が見られた。 (◎)	課題であった「手の押し」が強くなり、「技ができた」という記述が見られた。 (◎)	課題であった中間姿勢がよくなったという記述があった。 (◎)

抽出生Bは、【資料6】【資料7】にあるように、「課題把握」の段階では、倒立姿勢と倒立からの前転の2つに課題があると記述があるが、倒立姿勢についてはできない要因を記述しているが、倒立からの前転についてはできない要因について具体的な記述がなかった。「課題追求」の段

階では、倒立姿勢に着目して課題解決に取り組んだ記述があり、倒立姿勢を保つためのコツについて具体的な記述があった。さらに「振り返る」段階では、課題別学習活動でつかんだコツを生かし、技能が高まったことについての記述があった。一方で、もう一つの課題であった倒立からの前転に対する課題解決の方略や課題が解決されたかどうかについての記述がなかった。

【資料6】実践2における各学習過程でのめざす姿および

抽出生の変容	
	抽出生B
課題把握段階	学習過程 SUC-Sを通して自己の技能面における課題を捉え、言語化することができる。
課題追求の段階	倒立前転を課題とし、技を滑らかに行う上での課題点を具体的に記述していたが、その要因までは具体的な記述が見られなかった。(○)
振り返る段階	課題別学習活動を通して、自己に適した活動場所を選択し、解決策を見いだすことができる。
	模範動画を視聴することでコツをつかんだという記述内容があったが、選択したコースでの具体的な解決策の記述がなかった。(○)
	SUC-Tを通して、課題が解決したり、技能の高まりや新たな課題点について振り返ることができる。
	課題としていた倒立姿勢からの前転が少し滑らかにできたという記述が見られた。(◎)

【資料7】抽出生Bのカード記述

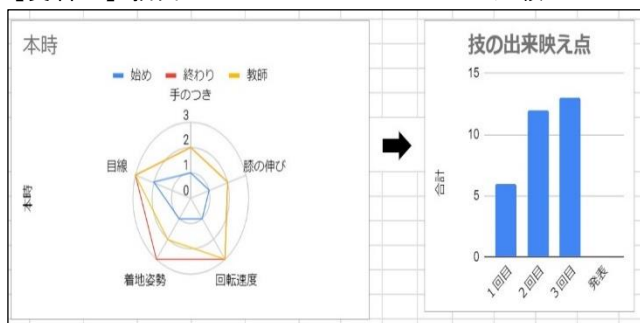
**【技能を活用し、振り返る：シンクロマット・SUC-TⅢ】**  
 始めは倒立が全然できなかつたけど、課題別活動やSUC-T等の活動を通して一つ一つの動きをちゃんとできるようになった。一気に全部できるようになろうとしたらうまくいかなかったから、倒立のコツ→真下を見ることを意識したら足が伸びて倒立がキープできるようになった。また腕を伸ばすときれいにできた。

**【課題追求：課題別学習活動】**  
 倒立を安定させる練習や跳び箱から肘をまげて前転するコースで練習した。1/2の確率で1秒以上静止して倒立ができない時があるので、さらに安定させるために壁倒立をしたい。上手な人はつま先が伸びていて目線がマットだったので真似してみると、倒立がしやすくなった。

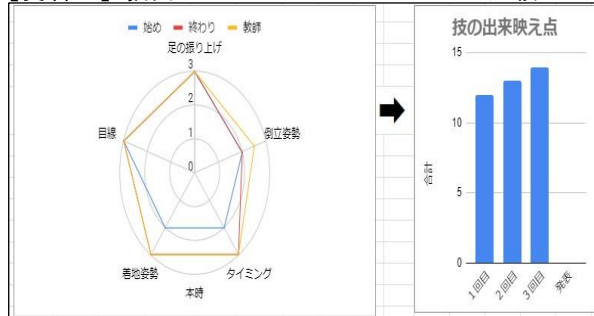
**【課題把握：SUC-TⅠ】**  
順番に曲げて前転をすることができなかつた。また、倒立姿勢で、マットを見ながらできていなかつた。上手な人は、倒立したときの目線としてマットを見ながらやっていたので真似したい。

抽出生4名のSUC-TⅠとSUC-TⅢの数値の比較をしてみると、【資料8】～【資料11】にあるように、抽出生Aはすべての要素において数値が上昇した。抽出生Bは、着地姿勢の数値は上昇しているが、倒立姿勢については変化が見られなかったが、教師の評価では数値が上昇している。抽出生Cは、課題の着地姿勢において数値が上昇している。抽出生Dは、課題の中間姿勢の数値が上昇したことに伴い、着地姿勢の数値も上昇した。膝の伸びについては変化がなかった。単元最後に行ったマット運動に関するアンケート調査の結果では、【資料12】にあるように、抽出生4名は単元を通して技能の高まりや、「できる」ことによる楽しさを感じているが、「マット運動が得意と言えるまでの技能習得には至らなかつた。これは、「できる」と感じる瞬間はあったものの、完全な技能習得段階まで至らなかつたことや、「柔軟性」という点でのつまづきが単元を通して改善されなかつたことも要因として考えられる。

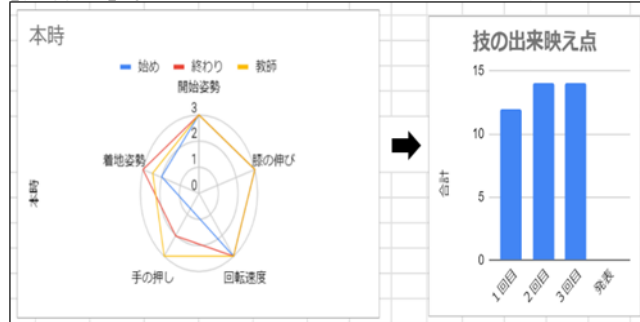
【資料8】抽出生AのSUC-SⅠとⅢの比較



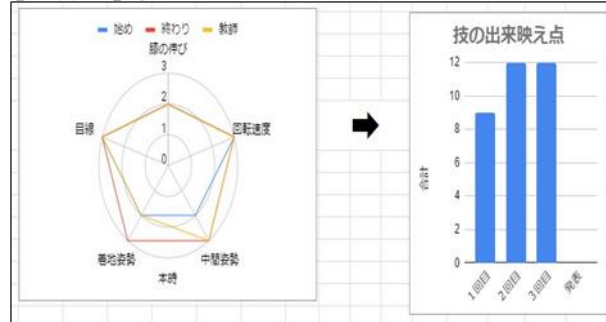
【資料9】抽出生BのSUC-SⅠとⅢの比較



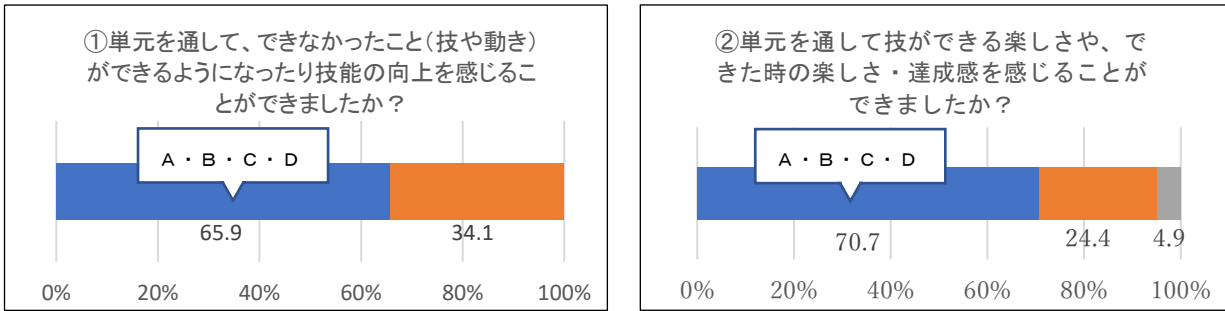
【資料10】抽出生CのSUC-SⅠとⅢの比較



【資料11】抽出生DのSUC-SⅠとⅢの比較

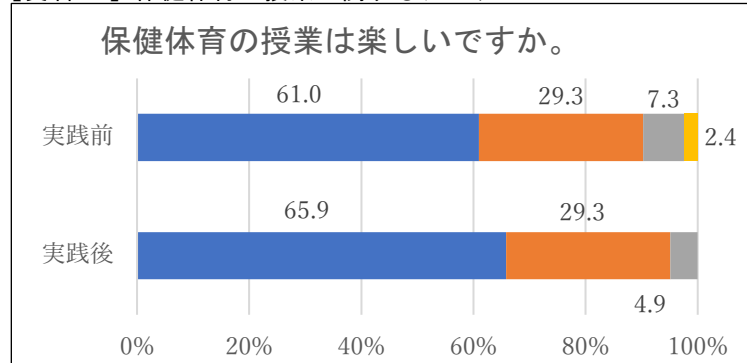


【資料 12】 マット運動に関するアンケート調査（単元最後）



学級全体における実践前と実践後の保健体育科の授業に関する意識アンケートの結果では、【資料 13】にあるように、「保健体育の授業が楽しいですか。」という質問に対し肯定的な回答をした生徒の数値が上昇した。「よく当てはまる」「当てはまる」と回答した生徒 39 名に、理由を問うと、「できる楽しさ」について記述した生徒が全体 70%であった。これは、できるようになるために、自己の技能段階や課題を把握し、解決策を見いだしたことが技能の変容につながったと考える。

【資料 13】 保健体育の授業に関するアンケート



5 研究の成果と課題

- 「課題把握」の段階で、SUC-Tを行い、「課題追求」の段階で、課題別学習活動の場を設定したことは、視覚的に数値化したSUC-Sを活用することで、生徒が客観的に課題を把握することができ、生徒が自身で分析した課題について集中的に練習を行い、技能向上のためのコツや方略を試すことができた。さらに、「振り返る」段階で、SUC-Sの数値が上昇しただけでなく、SUC-Tを通して分析することでマット運動の五つの要素を特性として捉え、解決の方略の一助となったと実感することができた。
- 学級全体における保健体育の授業に関する意識アンケートの「保健体育の授業が楽しい理由」において、学級全体の約 70%の生徒が「できなかったことができるようになる」ことによる楽しさを実感している。なかには、「自分のペースでできるようになるまで頑張れることに楽しさがある」と記述しており、個に視点をあてた課題別学習活動が個々の体力や技能々に適した活動ができ、個別最適な学習活動の場として有効であった。
- 「課題を把握する」段階で、抽出生Bのように、課題に対する要因までの具体的な記述まで至らない生徒がいた。マット運動を構成する姿勢や身体の各部分の動作に着目しながら要因を探れるようにSUC-Sに示す運動を構成する要素については検討の余地がある。
- 学級全体における保健体育の授業に関する意識アンケートにおいて、保健体育の授業が楽しくないと回答した生徒が2名いた。その理由として、「できないから」「できないと気分が下がる」という記述があった。課題別学習活動を行う際のコースの設定について検討の余地がある。

6 研修を修了しての感想

本研究を通して、スキルアップ活動を行えば、自己の課題把握から課題解決策を見いだすことで技能が高まり、「できる」楽しさを味わうことができる生徒の育成につながるということが分かった。今後も更にスキルアップ活動の中身を深め、生徒が保健体育の授業で「できる」経験を多く積むことができる授業づくりを行っていきたい。

備考 ○ 在籍校 福岡市立春吉中学校 電話番号 (092) 551-4411

1 単元 「ダンス～現代的なリズムダンス～」

2 指導観

- 情報技術の進展，SNSの普及により間接的コミュニケーションが多くなり，実体験の中で，自己表現をし合う経験が希薄になっている。価値観が多様化した今，自己や他者の考えや表現を受け入れ，保健体育科の授業で身体表現を通して仲間と関わりを深めることが求められる。

本単元では，ヒップホップのリズムや動きの特徴を捉え，様々なステップや変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って，全身で弾むように踊ったり，体の一部でリズムを刻んだりすることをねらいとしている。自己の課題を発見し，合理的な解決策を考えながら技能を高め，高まった技能を集団による身体コミュニケーションを通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることができる運動である。また，リズムに合わせて全身を解放して楽しく踊ることは体力・運動能力の向上とともに，ストレス発散や心身の癒しの機能を有し，仲間とともに，踊り，創り，見せ合い，交流することで相互理解を深めることができるという点で，大変意義深い。

○

個人情報保護のため、  
生徒観は省略しています。

3 目標

- 現代的なリズムダンスの特性を捉え，ヒップホップのリズムで変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って全身で踊ることができる。
- 自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，発表会において，自分や仲間と考えた動きやアイデアを仲間に伝えることができる。
- ダンスの学習に積極的に取り組み，仲間の学習を援助しようとしたり，交流などの話し合いに参加したりしようとしている。

4 計画 (10時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動	評価規準
課題把握段階	3	1 ヒップホップダンスの特性を捉え，自己の課題を把握する。 (1) 現代的なリズムダンスの特性を理解する。 (2) 基本ステップを確認する。 (3) S U C - T Iを通して，自己の技能面における課題を把握する。	態：ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。 知：リズムのとり方や基本ステップの行い方をまとめることができる。 思：自己の課題をS U C - Tの5つの要素と関連付けながら記述することができる。
課題追求段階	2	2 自己の課題解決を行う。 (1) 課題別学習活動を通して，課題を追求する。 (2) 課題別学習活動とS U C - T IIを通して，自己の表現力を追求する。【本時】	思：自己の課題を解決するために適した活動場所の選択をしている。 知：リズムに乗って全身で弾むように踊ることができる。
振り返り段階	5	3 グループでステップを組み合わせる。 (1) グループの技能段階をS U C - Tを用いて分析し，取り入れるステップや隊形をまとめる。 (2) 組み合わせたステップを実践する。 (3) ダンスの構成等を見直し，修正する。 (4) 発表会を行う。 (5) S U C - T IIIを行い，単元を振り返る。	思：グループに合ったステップを取り入れたダンスを提案できる。 知：変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って全身で踊ることができる。 態：仲間のよい表現や動きを認めようとしている。

5 本 時 令和6年2月14日(水) 第3校時 計画 第二次の2 体育館にて

(1) 主 眼

- 課題となるステップや各要素のつまづきを解決するための課題別学習活動を通して、各要素の課題を解決し、リズムに乗って全身で弾むように踊ることができる。

(2) 準 備

- ①ホワイトボード                      ②テレビモニター                      ③スピーカー                      ④クロームブック
- ⑤コーン, ゴム紐, ゼッケン⑥全身鏡

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	主な手だて (○), 研究に関わる手だて (◎), 評価 (◇)	形態	配時
<p>1 リズムダンスで体を動かし、本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) ウォーミングアップをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本ステップ</li> <li>・ビズマーカー</li> <li>・ポップコーン</li> <li>・ランニングマン</li> <li>・パドブレ</li> </ul> <p>(2) S U C - S を振り返り、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて リズムに乗って全身で弾むように踊ろう。</p> </div>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p>	<p>○ 自己と上手な人の踊りの違いや、上手な人の体の使い方等のコツに気付かせるために、グループで円になって互いに見合いながら踊るように指示する。</p> <p>○ リズムに乗って全身で弾むように踊るには、ダンスを構成する5つの要素に相関関係があるということに気付かせるために、模範動画を視聴し、全身で弾むように踊るためのポイントや動作について問う。</p> <p>◎ 自己の課題を再認識させるために、S U C - S を振り返る場を設定する。</p>	<p>一斉</p>	<p>10</p>
<p>2 課題別学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己に必要な活動場所の選択</li> <li>・リズム</li> <li>・ステップ</li> <li>・上半身の動き</li> <li>・ダイナミックさ</li> <li>・メリハリ</li> </ul>		<p>◎ 自己の課題を解決させ、全身で弾むように踊る感覚をつかませるために、生徒のつまづきを想定したステップ別・技能段階別のコースを提示する。</p> <p>◎ 自己の課題解決につまづいている生徒に生徒同士で解決方法を見いださせるように促し、つまづきの要因が別の要素が関連していないかを問う。</p>	<p>小集団</p>	<p>20</p>
<p>3 S U C - T II を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の動きとの比較</li> <li>・要素同士の相関性</li> </ul>		<p>◎ 自己の技能の高まりや課題を把握できるようにするために、相互評価をする際に、数値化した根拠について、各要素を基に具体的な言葉で評価をするように指示する。</p>	<p>小集団</p>	<p>10</p>
<p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題別学習活動の有効性と課題把握</li> <li>・技能の変容</li> </ul>		<p>◎ 5つの要素を高めるためには多様な解決方法があることに気付かせるために、数名の生徒に課題別学習活動で見出した解決策や取り組みが成果として技能の向上につながったかどうかを発表させる。</p> <p>◇ 課題別学習活動を通して、各要素の課題を解決し、リズムに乗って全身で弾むように踊ることができたかどうか。</p> <p>&lt;様相観察・学習カード・S U C - S &gt;</p>	<p>個人 ↓ 一斉</p>	<p>10</p>